

立教大学専任教職員 海外派遣期間中の教育研究活動の実績

1. 専任教員

期間	研修先機関名	教育研究活動の実績 * 研究成果(要旨)
2019/9/1 ~ 2020/9/2	イタリア共和国 ヴェローナ大学	イタリアのペローナ市、中国の上海市と麗江市においてICT利用状況を調査した。
2020/8/12 ~ 2021/3/12	ベルギー王国 ブリュッセル自由大学	13世紀中葉以降の聖体信仰の刷新を背景とした信仰の実践と聖体・聖人図像、祈禱文の新たな展開について、新資料の収集とともに、それらに基づきフィリップ善良公所有の彩飾祈禱集写本を実例として総合的な分析と考察を行った。
2020/8/23 ~ 2021/9/1	ドイツ連邦共和国 ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン	現代欧州民俗学の社会的広がりを博物館の現状から捉えた。
2020/10/20 ~ 2021/8/9	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校	超長期、大被害(カタストロフィー)に関するリスクの開示内容を適切に評価する方向性を検討し、企業価値との関係を示した。
2020/10/24 ~ 2021/9/1	アメリカ合衆国 ハワイ大学ウエストオアフ校	ワイキキ地区における土地利用と土地所有者の変化に関する研究と、メディアと観光客による観光情報の受発信に関するスマートツーリズム研究を実施した。
2021/4/1 ~ 2022/3/31	大韓民国 梨花女子大学校梨花史学研究所 インド共和国 ジャワハルラール・ネルー大学	南アジアと東アジアの植民地鉄道に注目し、帝国圏の本国から植民地へ技術移植と現地化を戦前から戦後にかけて比較分析した。
2022/6/1 ~ 2022/9/12	フィリピン共和国 バンサモロ暫定自治政府	2022年5月9日の選挙で当選したバンサモロ統一党所属の市長、町長らにインタビューを行うことにより、和平プロセスの一局面を明らかにした。
2021/8/6 ~ 2022/9/19	大韓民国 北韓大学大学院・延世大学 ドイツ連邦共和国 ベルリン自由大学	北朝鮮映画の国際合作に関連する歴史的資料、特にヨーロッパ監督の作品の収集、調査等を行った。
2021/8/10 ~ 2022/9/1	オーストリア共和国 ウィーン大学教育学研究科	ドイツ語圏の入試改革に関する総合的研究を行った。
2021/8/11 ~ 2022/8/12	アメリカ合衆国 フロリダ大学	米国大学の体育会所属選手の活躍や存在の影響力を分析した。
2021/9/1 ~ 2022/8/13	アメリカ合衆国 コロンビア大学	長い19世紀のアメリカ合衆国ニューヨーク市における公共圏・市民性の再編過程について、史料収集と研究を実施し、その成果の一部について原稿化した。在外研究先のコロンビア大学(米国)を中心に研究ネットワークの整備も進んだ。
2021/11/11 ~ 2022/8/10	マレーシア 新紀元大学学院	マレーシアを中心事例として2010年代から登場し、最近では「サイノフォン」というカタカナ語も通用しつつある華語語系(華語系華人)文学について、作家本人や主に大学の陳六使図書館の文学資料を活用することによりつづさに知り、今後の研究構想、資料を得ることができた。
2022/3/7 ~ 2023/3/31	アメリカ合衆国 ハワイ大学ヒロ校	ハワイの歴史と神話に焦点を当てた研究を行った。
2022/3/25 ~ 2023/3/26	英国 ロンドンスクールオブエコノミクス オーストリア共和国 ウィーン大学 イタリア共和国 シチリア大学 フランス共和国 IESEG経営大学院	特に英国において盛んな企業の社会的成果(社会的インパクト)に関する理論的かつ実践的な研究を行った。
2022/4/8 ~ 2023/3/25	フランス共和国 リヨン高等師範学校	15世紀フランスのさまざまな著作における生死の意識や男女観について考察した。
2022/8/2 ~ 2022/10/24	カナダ オタワ大学 同国 ブリティッシュコロンビア大学	カナダ・ケベック州における生殖補助医療に関する法規制について状況調査等を行った。
2022/8/15 ~ 2023/9/7	台湾 輔仁大学	各国における不平等や社会階層構造の特徴などについて意見交換し、日本における、独自の社会調査結果について発表を行った。
2022/8/31 ~ 2022/10/30	オーストラリア連邦 オーストラリア国立大学 同国 The Parent-Infant Research Institute	周産期うつ・不安に影響する心理・社会的要因に関する日豪比較研究を行った。
2022/9/1 ~ 2023/9/5	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校	アメリカ文学を代表するハーマン・メルヴィル作品における他者の存在に着目し、その意味を考究した。
2022/9/17 ~ 2023/9/4	アメリカ合衆国 シラキュース大学	現代のアメリカの図書館思想を総合的に理解するべく調査および研究を進めた。

期間	研修先機関名	教育研究活動の実績 * 研究成果(要旨)
2022/12/28 ~ 2023/3/31	ベトナム社会主義共和国 ベトナム国家大学	COVID-19パンデミック及びロシアによるウクライナ侵攻というグローバル観光の現代的な重要課題を実地に考察するため、ニャチャンをフィールドに国際観光流動の新動向を追跡するとともに、観光エンクレーブの形成・変容に与える影響について調査した。調査からは、ロシアからのマストツーリズムの停止とそれに依存したエンクレーブ経済の崩壊、マストツーリストに代わる政治的危機からの避難長期滞留者の出現によるエンクレーブ空間の変容、ロシア語を媒介とした観光文化インフラの転用先としての中央アジア市場の勃興と観光エンクレーブの変容等を明らかにした。
2023/3/15 ~ 2024/3/15	英国 ラフバラー大学	20世紀イギリス小説におけるスパイ性の問題の特定事例として、20世紀イギリスの小説家イーヴリン・ウォーの作品における文化的・階級的スパイ性の問題を「キツチュ」という概念を用いて解き明かした。
2023/3/29 ~ 2024/3/26	ドイツ連邦共和国 ベルリン自由大学	現代ドイツ語文学の多文化性、多言語性について、文学作品の事例を文献調査によって社会的文脈に位置付けながら批判的に検証し、移民／非移民の二項対立を超えようとする「ポスト移住」概念が構築する言説を演劇、ミュージアム展示などの調査を通して分析した。
2023/4/11 ~ 2023/6/20	イタリア共和国 ミラノ大学	14世紀から15世紀にかけてイタリアの宗教絵画で見られる動物紋様に関して資料収集と考察を行い、15～16世紀を画期として様相が異なることを確認した。
2023/4/20 ~ 2024/3/10	イタリア共和国 ヘルツィアーナ図書館、フランス 学術院図書館、関連教会堂等 英国 フィッツウィリアム美術館、カンタベリ大聖堂 等	「古代から中世におけるローマ美術研究」および「ユダヤ美術の生成・発展をめぐる研究」を行った。
2023/5/6 ~ 2024/3/21	英国 ケンブリッジ大学	1991年以降の日本における宗教原理主義の隆盛を、新自由主義という政治・経済的体制の中で分析することを目的とした。結果、日本における原理主義の潮流を特異な事例と見なすのではなく、グローバル社会において展開する、宗教原理主義の一つとして理解した。
2023/5/9 ~ 2024/3/31	スイス連邦 ジュネーヴ大学 他	ジュネーヴ近郊の作家ビュートル旧居の地元自治体による活用の実態、ビュートルによるヴェネツィア描写、シャーロック・ホームズシリーズに関わるコンテンツツーリズム等についての調査を行った。
2023/9/2 ~ 2023/11/23	ベルギー王国 ルーヴェン・カトリック大学	ヨーロッパの連帯の政治が経済危機、戦争、難民危機で体系的解決に困難を来している現状を、社会運動とテクノクラティック・ポピュリズムの両面から調査・考察した。
2023/9/14 ~ 2024/9/19	ベルギー王国 ルーベン・カトリック大学	欧州を中心に発展してきた通訳翻訳研究の過去・現在・未来について深く研究し、今後の日本における研究に役立てるという目的のもと、多言語環境に身を置き、海外の研究者との交流を行うことで、通訳翻訳の日常的な必要性や、そこから生まれる研究への期待を感じ、今後の研究の方向性を見定めた。
2023/10/30 ~ 2024/2/14	オーストラリア連邦 フリンダース大学	暑熱順化中の脳内ドーパミン(DA)を抑制した際の体温変動とDAニューロンの活性度を観察し、その役割を明らかにすることを目的とした。結果、DAが暑熱順化中の体温変動に大きく関与することが明らかとなり、今後の熱中症対策に貢献できる可能性が示唆された。
2024/4/1 ~ 2024/12/31	台湾 中央研究院台湾史研究所	台湾水泥公司に関する資料調査
2024/4/12 ~ 2024/6/12	英国 ボドリアン図書館 ポルトガル共和国 国立考古学博物館等	トルコのアカルチャイ盆地でこれまで取り組んできた古代から中世にかけての地中海世界における居住様式・生業形態変化の東西比較の解明について、地中海世界西部のポルトガルの事例と比較し、通説で言われる城砦化が常に行われてはいないとの結論を得た。
2024/5/8 ~ 2024/7/13	デンマーク王国 コペンハーゲン大学 英国 スコットランド国立美術館	一般相対論とその宇宙物理学・宇宙論への応用に関するヨーロッパの研究情勢について最新の情報を得た。また共同研究の端緒となる議論を行った。
2024/8/4 ~ 2025/3/13	ドイツ連邦共和国 ハンブルク大学	史的イエス研究のうち、とりわけイエスの警めについての研究を行った。
2024/8/13 ~ 2025/4/2	英国 バーミンガム大学公共政策学部	(1)ストリート・レベル官僚制(Street Level Bureaucracy)の研究動向の把握 ①リプスキーのストリート・レベル官僚制に対する捉え方には必ずしも一貫した合意が存在しているわけではないこと、②ネットワーク・ガバナンス論の枠組みにおいて積極的な位置づけが可能ではないかということ、③行政学のアカウンタビリティ論など、「古くて新しい」議論がなお一定の有効性を持ちうること、といった理解を得ることができた。 (2)英国自治体の公共調達の実態把握 ①英国自治体の公共調達が価格以外の要素を重視する方向に舵を切っていること、②閾値を超える金額の大きな契約に対してはその手続を厳格に定める一方、金額の小さな契約については調達担当者の裁量の幅が大きいことなどを理解することができた。 (3)バーミンガム市破綻の背景の考察 バーミンガム市の財政破綻の根底には、新規導入システムの不具合とそれに伴うデータ把握の困難、労働組合との没交渉、中央政府の消極的対応など、複合的な要因が絡み合っていることを理解できた。 (4)コミュニティ活動の多面性と行政との関係についての把握 英国のアソシエーションやコミュニティは、英国の草の根民主主義を支える基盤になっていることを確認した。 なお、本研究課題は2025年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))に採択された(JSPS KAKENHI Grant Number JP25K05712)。

期間	研修先機関名	教育研究活動の実績 * 研究成果(要旨)
2024/8/8 ~ 2025/5/26	Yale Law School	Yale Law SchoolでLLMプログラムを修了したほか(履修科目は憲法、legal history中心)、John Witt教授(不法行為法、アメリカ法史)の指導のもと、legal historyの研究プロジェクトを進めた。主な成果としては、1960年代から1970年代にかけての日本におけるアメリカ憲法判例受容の歴史を、副次的には、1970年代におけるアメリカ憲法判例のうち事前抑制分野の展開を、研究した作業が残っている。
2023/8/7 ~ 2025/8/1	カリフォルニア大学バークレー校ロースクール	上記研究課題は、個人に関する大量の情報が電子データの形で保管されている現代社会において、捜査機関による電子的証拠の捜索・押収をどのように法的に規律すべきかという問題を、アメリカ法と日本法を比較しつつ検討するものである。具体的には、①令状主義の要請が電子的証拠にどのように及ぶか(令状主義)、②インターネット・サービス・プロバイダ(以下「ISP」という)等の第三者が管理するサーバにクラウドサービス等を通じて保管されている電子的証拠を捜査機関が収集しようとする場合に、どのような法的規律が及ぶべきか(第三者)、③電子的証拠が海外に所在するサーバに蔵置されている場合には、捜査機関がそれにアクセスすれば越境的アクセスによる国際法上の問題が生じ得るが、それをどのように解決するか(越境性)、という問題に取り組んだ。カリフォルニア大学バークレー校においては、本研究に関連する授業に出席し、また、カリフォルニア州その他の裁判所の裁判官に聴き取り調査を実施し、成果の一部を口頭で報告した。
2024/8/21 ~ 2025/8/5	ボストン Harvard Law School, East Asian Legal Studies Program オックスフォード大学附属図書館にて文献調査	本研究は、米、英、NZにおける(1)不法行為訴訟及び公的補償制度の法的枠組み及び運用を調査し、(2)かかる法的枠組み及び運用を、不法行為法の基礎理論、すなわち、不法行為法の道具的理解(法と経済学によるリスク行為抑止/福祉的思想に立脚する損害分配)、矯正的正義論ないし権利論に基づく理解等に基づき分析し問題点を析出するとともに、(3)法的制度の進むべき方向性についての示唆を得ることを試みるものである。
2025/4/9 ~ 2025/9/19	アテネオ・デ・マニラ大学	近年フィリピンにおいて、他の東南～東アジア諸国出身(外国人)の若い聖職者が養成を受けるケースが増えてきた。COVID-19パンデミックによる一時的停滞へて、トレンドは徐々に戻りつつある。 これは、カトリック教会(バチカン)を頂点とする世界のカトリック教会の総体が今日重視するアジア宣教の一環とみることができる。その戦略は「宣教対象国出身の聖職者を増やす」「そのための聖職者養成をアジア域内で行う」ということである。ヨーロッパに軸足を置く従来の方式(ヨーロッパ人宣教師派遣、現地出身聖職者のヨーロッパでの養成)と異なる、アジア域内での人的還流であり、聖職者移動の新潮流である。この潮流の核として聖職者養成の場となっているフィリピンに注目し、聖職者養成の場には選ばれる背景・要因、養成のための、周辺アジア諸国からの聖職者流入の実態、ならびにフィリピンでの聖職者養成/神学教育の内容・方法への接近を試みた。また神学教育の場(神学校)は、神学(宗教「知」)を保存・伝達すると同時に、新たな神学を生み出す場でもある。周辺国からの「留学生」流入による多国籍化・多文化化がフィリピンの神学[教育]にもたらしている変化の様相を追究した。

2. 専任職員

期間	研修先機関名	教育研究活動の促進に資する派遣の実績 * 活動成果(要旨)
2023/5/28 ~ 2023/6/4	オーストラリア連邦 RMIT大学 オランダ王国 ロッテルダムエラスムス大学等 *アメリカ合衆国 ウォルターE.ワシントンコンベンションセンターにて	NAFSA(National Association of Foreign Student Affairs)の年次大会に参加し、計31大学(協定校12校、新規校19校)との間でミーティングを行った。協定校については、協定の更新・双方の受け入れ人数の不均衡改善・双方のプログラム等の紹介等、新規校については、協定締結に向けての協議等を行った。
2023/5/28 ~ 2023/6/4	同上	同上
2023/9/25 ~ 2023/10/1	スペイン王国 アルメリア大学 ケンブテン応用科学大学 等 *オランダ王国 アホイ・ロッテルダムにて	EAIE(European Association for International Education)の年次大会に参加し、計32大学(いずれも協定候補校)との間で、協定締結の候補校を開拓するためのミーティングを行った。ミーティングでは、派遣学生が英語で履修できるカリキュラムが開講されていることや、学期の開始と終了が双方のアカデミックカレンダーに合致していること、本学から派遣する場合の能力要件の有無等について重点的に確認を行った。
2024/5/26 ~ 2024/6/2	カナダ ダグラス大学 オーストラリア連邦 南オーストラリア大学等 *アメリカ合衆国 アーネスト N. モリアル コンベンションセンターにて	NAFSA(National Association of Foreign Student Affairs)の年次大会に参加し、主に既存協定校のメンテナンスを目的として、既存協定校の中でも、インバランスが生じている大学、交流実績が少ない大学、近年面談等の機会を持っていない大学等を優先的に計46大学との間でミーティングを実施した。
2024/5/26 ~ 2024/6/2	同上	同上
2024/5/26 ~ 2024/6/2	同上	同上
2024/9/15 ~ 2024/9/22	フランス共和国 フランス国立東洋言語文化学院 ドイツ連邦共和国 フィリップ大学マールブルク等 *フランス共和国 エキシビジョン&コンベンションセンターにて	EAIE(European Association for International Education)の年次大会に参加し、主に既存協定校のメンテナンスを目的として、双方の近況報告や情報のアップデート等について計43大学との間でミーティングを実施した。

期間	研修先機関名	教育研究活動の実績 * 研究成果(要旨)
2025/5/25 ~ 2025/6/1	カリフォルニアポリテクニク州立大学等 *San Diego Convention Centerにて	NAFSA(National Association of Foreign Student Affairs)の年次大会に参加し、計23大学(協定校21校、新規校2校)との間でミーティングを行った。協定校については、協定の更新・双方の受け入れ人数の不均衡改善・双方のプログラム等の紹介等、新規校については、協定締結に向けての協議等を行った。
2025/5/25 ~ 2025/6/1	同上	同上
2025/9/7 ~ 2025/9/17	(スウェーデン)EAIEカンファレンスに参加するため	EAIE(European Association for International Education)の年次大会に参加し、主に既存協定校のメンテナンスを目的として、双方の近況報告や情報のアップデート等について計32大学との間でミーティングを実施した。
2025/9/7 ~ 2025/9/14	同上	同上
2025/9/7 ~ 2025/9/14	同上	同上